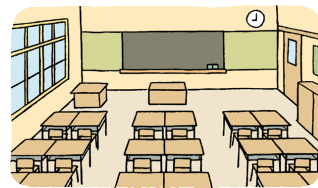


合理的配慮のヒント① 落ち着いて過ごせる教室環境（学習環境）づくり

全ての児童生徒が落ち着いて過ごせる教室環境（学習環境）

発達障害やその傾向のある児童生徒は、周囲の小さな変化が気になって注意が続かないことがある一方で、教職員が配慮することで落ち着いて取り組むことができる場合もあります。

全ての児童生徒が安心でき、落ち着いて過ごせるために、不要な刺激を減らしたり、整理整頓に努めたりすることが大切です。ここでは、教室環境（学習環境）チェックリストの例を紹介します。視覚的な支援は状況に応じて変更していきましょう。また、項目によっては学校全体で検討し、共通理解することが大切です。



教室環境（学習環境）チェックリスト（例）

集中しやすいように	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 黒板が見えやすく、板書を書き写しやすい座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 教員からの支援を受けやすい座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 備品や掲示物、外の景色や音などが過度の刺激にならない座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> まぶしすぎたり、暗すぎたりしない座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 前面黒板がきれいに消された状態で授業が始められている。 <input type="checkbox"/> 前面に不要な掲示物がない。 <input type="checkbox"/> 授業の開始時に児童生徒の机の上に必要な物だけが出ている。 <input type="checkbox"/> 授業の終わりごとに机の上に何も置いていない状態になっている。 <input type="checkbox"/> 定期的に机の中を点検させ、整理させている。 <input type="checkbox"/> 廊下のフックやロッカーなど、持ち物が整理しやすいように工夫している。 <input type="checkbox"/> 教員の声は全ての児童生徒に届く、適度な大きさである。 <input type="checkbox"/> 教員の話し方は丁寧に聞き取りやすい。 <input type="checkbox"/> 教員の表現が豊か（音声、表情、身振り、動作等）で、温かい雰囲気である。 <input type="checkbox"/> 机間指導、声かけ等、教員の働きかけが適切である。
トラブルを防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教員の机の上には必要なものしか出ていない状態になっている。 <input type="checkbox"/> 教員用ロッカーが生徒の視野に入る場合、中が見えないようにしている。 <input type="checkbox"/> 教室の棚や掲示物の整理がされている。 <input type="checkbox"/> 朝、教室に入ったとき、机の並びが整っている。 <input type="checkbox"/> 朝、教室に入ったとき、ゴミが落ちていない。 <input type="checkbox"/> 危険な物（図工や技術の道具等）が身近なところではなく、片付けられている。 <input type="checkbox"/> 壊れやすい物や、はがれかけた掲示物を放置しないようにしている。 <input type="checkbox"/> 人間関係でトラブルになりやすい児童生徒の座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> サポートをしてくれる児童生徒の座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の机と机の間隔が適切である（近すぎない。遠すぎない。）。
見通しをもちやすくする	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1日のスケジュールが簡潔に提示してある。 <input type="checkbox"/> 次の授業や活動の準備物、移動先等の指示が視覚的に提示されている。 <input type="checkbox"/> 給食当番やそうじ当番、日直等の仕事の内容やローテーションが掲示されている。 <input type="checkbox"/> 当番活動の直前に、児童生徒自身に仕事の内容や手順等を確認させている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が何をしようかわからない時間や状況に対して、個別的な支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 初めて体験する行事では、ビデオ等で前年度の様子を示したり、予行練習を行ったりしている。 <input type="checkbox"/> スケジュールの変更等に対して、事前に見通しをもちやすくなるような支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの児童生徒に合った方法で、次の日の連絡が確実に伝わっている。

合理的配慮のヒント② 「わかる」「できる」を実感できる授業づくり

全ての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業

全ての児童生徒が自分の力を発揮し、認められ、「わかる」「できる」ことを実感できる授業づくりのためには、全ての児童生徒にとって教育の基本となる教科教育の充実に加えて、「障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫」「障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮」などの特別支援教育の視点を取り入れることが重要です。

障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫(例)

観 点	工 夫 の 例
学 習 過 程	準 備 <input type="checkbox"/> 授業を始める前に、机上の整理や準備について確認させるようにしている。 <input type="checkbox"/> 教科書、ノート等を準備するタイミングを明示している。 <input type="checkbox"/> 授業の終了後には、次の授業の準備をさせるようにしている。
	導 入 <input type="checkbox"/> 前時の内容を「〇×クイズ」、「フラッシュカード」等で復習している。 <input type="checkbox"/> 最初に活動の流れや到達目標等を板書している。
	展 開 <input type="checkbox"/> 目標を達成するための課題を、段階を追って理解できるよう活動を細分化(ユニット化)している。 <input type="checkbox"/> 授業の流れを示した図と色磁石で、今何が行われているか、何をすることがわかるようにしている。 <input type="checkbox"/> 補充的な学習や発展的な学習を用意するなど、学習活動に選択の幅をもたせている。 <input type="checkbox"/> ノートを書く際に、「着目する→見る→読む→書く」という流れを意識させ、内容を確認させている。 <input type="checkbox"/> 作業的な活動を取り入れている。(ノートをとらせる、アンダーラインを引かせる、数えさせる等) <input type="checkbox"/> 授業の間に1分間の整理整頓の時間を設定している。(事前に予告する。) <input type="checkbox"/> 時計とタイマーを使って、活動時間や終了時間を明確にし、考える時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 確かめながら話す、理由と一緒に話す、わかりやすく話す等の発表のルールを示し意識させている。
	ま と め <input type="checkbox"/> 板書のポイントをさし示し、まとめを音読して確認している。
発 問 指 示 評 価	<input type="checkbox"/> ゆっくり、短い言葉で、具体的に話をしている。(抽象的な言葉を減らす。) <input type="checkbox"/> 指示は教員の顔に注目させてから出し、一文一動作、一文一義となるように心がけている。 <input type="checkbox"/> 指示や発問内容が見える形にする等、視覚的イメージを促す表現を使っている。 <input type="checkbox"/> 語調を変化させている。(ポイントの前には間をおく、要点は繰り返す等)
	<input type="checkbox"/> 肯定的な表現を使うように努め、児童生徒の自尊心に配慮している。 <input type="checkbox"/> 指示を出した後、全員が理解したかどうかを確認して、次の指示を出している。 <input type="checkbox"/> 全体での指示の理解が困難な児童生徒には、活動の前に個別に指示を与えている。
	<input type="checkbox"/> 既習事項等の想起の手がかり(ヒントカード等)を準備し、必要に応じて使っている。 <input type="checkbox"/> 望ましい言動に肯定と称賛の言葉をかけ、何がよかったのかを全員の前で伝えている。 <input type="checkbox"/> 取りかかりに時間を要する児童生徒には、手元の手順カードで課題を確認できるようにしている。
学 習 形 態	<input type="checkbox"/> 学習方法や内容に応じた形態(個人、ペア、グループ、全体)を取り入れている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒同士で教え合ったり、助け合ったりする場面を取り入れている。
教 材 教 具	<input type="checkbox"/> ワークシート等を工夫し、話し合いに集中できるようにしている。 <input type="checkbox"/> ワークシートは、ノートに貼り付けることができる大きさにしている。 <input type="checkbox"/> 電子黒板やプロジェクタを活用し、視覚的な支援を行っている。
板 書	<input type="checkbox"/> 「めあて」と「まとめ」を赤で囲み、各時間の学習内容を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 記入する内容によって書く場所を使い分けたり、短冊黒板を利用したりしている。 <input type="checkbox"/> 板書や提示教材を、ノートやワークシートと連動させている。 <input type="checkbox"/> ポイントやキーワードは拡大や強調している。 <input type="checkbox"/> 行間は広く、罫線、チョークの色分け等で、ポイントにメリハリをつけている。 <input type="checkbox"/> 文字の大きさや配列を意識し、最後列からも見えやすい板書や掲示にしている。 <input type="checkbox"/> よく使う指示、ポイント、矢印、枠等は、繰り返して使えるようにイラスト(カード)化している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が書く時間を確保している。
学 習 環 境 他	<input type="checkbox"/> 「相手を意識して発表する」「話している相手の方を見て聞く」などの学習ルールを明確にしている。 <input type="checkbox"/> 教室内に「学習の履歴」コーナーを設け、既習事項の想起や現在の学習との関連付けを図っている。 <input type="checkbox"/> 集中力を高めることのできる座席や人間関係を踏まえた座席を考慮している。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりのよさや努力の過程が認められる場の設定に努め、児童生徒の意欲の向上を図っている。



合理的配慮のヒント③ 授業における個別的な支援の充実

障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮（例）

観点	困 難	支 援 や 配 慮 の 例
聞く	指示を理解することが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □指示代名詞は可能な限り使わない。 □短く、はっきり、ゆっくり話す。
話す	筋道に沿って話すことが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □じっくりと話を聞き、話そうとしていることを適切な言葉で言い換える。 □「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」に合わせて話をさせる。
読む	音読が苦手	<ul style="list-style-type: none"> □漢字にふり仮名をつける。 □教科書等の文字を拡大する。 □スリットの入った厚紙を使い、読む行だけが見えるようにする。
	読解が苦手	<ul style="list-style-type: none"> □文書に関係のある絵を準備する。 □キーワードを <input type="text"/> で囲んだり、段落の関係を図で示したりする。 □選択肢を用意し、どれが主題かを選択させる。
書く	書くことが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □必要に応じてワークシートを使う。 □『親』は、『立って木を見る』など、字を練習する際、覚える方法を工夫する。 □漢字の練習では大まかに書けていれば正解にするなど、段階的な到達度を設ける。 □場合に応じて、パソコンの利用を認める。
	作文が苦手	<ul style="list-style-type: none"> □作文の下書きやアウトラインメモを用いる。 □写真や絵など、作文を書くときの手がかりを用意する。 □テーマを決めた作文、自由に書く作文など柔軟に設定し、苦手意識を軽減する。
計算する	計算が苦手	<ul style="list-style-type: none"> □一度に取り組みさせる計算問題の量を調整する。 □必要に応じて具体物を使う。
推論する	文章題が苦手	<ul style="list-style-type: none"> □解き方の手順を示す。 □問題文の中で要点やキーワードに印をつける。 □既習事項で、本人が自信をもって答えられるような発問を用意する。
不注意	集中することが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □1時間の授業の中で、異なる課題を準備し、困難の状況に応じて柔軟に選択する。 □1時間の授業の流れを一定にし、見通しがもてるようにする。
	忘れやすい	<ul style="list-style-type: none"> □メモをとるようにさせる。 □メモやプリントを入れる場所を決める。 □持ち物は複数にせず、一つにまとめる。
多動性 衝動性	指示や役割を遂行することが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □一度に一つの指示を伝えるようにする。 □指示を具体的にするとともに、必要に応じて復唱させてみる。 □わからないときには、援助や助言を求められるようにする。
	感情的になりやすい	<ul style="list-style-type: none"> □気持ちを受け止め、落ち着くまで待つ。 □落ち着いたら一緒に状況を振り返り、どうすべきだったか考えさせる。 □気持ちが落ち着く場所を用意する。
対人 関係	グループに入ることが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □グループでの役割分担を明確にする。 □サポートしてくれる児童生徒をグループに入れる。 □周囲の児童生徒にも理解を求め、援助してもらえるようにする。
	会話を発展させることが苦手	<ul style="list-style-type: none"> □話しかける前や話題をかえる時は、相手に一言確認するように指導する。 □自分の興味のある話をするだけでなく、相手の意見を聞くように指導する。 □好きな話題を一緒に楽しむ時間をつくる。
	急に不安定になる	<ul style="list-style-type: none"> □急に感情的になったことについては叱責せず、保健室等で静かに休ませる。 □落ち着いたと判断できたら、不安定になったきっかけと一緒に振り返る。 □本人の気持ちを理解するとともに、周囲の児童生徒の気持ちについて一緒に考え、どうすべきであったのかを話し合う。
	状況に関係のない話をしてしまう	<ul style="list-style-type: none"> □活動の流れと現在の活動が何かを文字や絵で提示し、確認させる。 □伝えるときは、できるだけ具体的な言葉で話す。 □相手を傷つける発言に対しては後で話を聞き、相手の気持ちを考える機会をもつ。
こだわり	予定変更への対応が苦手	<ul style="list-style-type: none"> □時間を変更する場合は、前日までには伝え、さらに当日の朝、再度説明し確認する。 □変更点は口頭だけでなく、視覚的に確認できるようにする。
	特定のことへのこだわりが強い	<ul style="list-style-type: none"> □できることを増やし、関心を広げることでこだわりを減らすように努める。 □してもよい時間や場所などを決め、小さな約束から守るようにさせる。 □こだわりがよい面に現れることもあるので、長所としてとらえるようにする。

